



# 出水高校だより

第三号 令和三年四月二十八日

## とてもうれしい話

昨日、近隣の小学校の校長先生からお電話をいただきました。お電話の内容がとてもうれしいものでしたので、保護者の皆様にもお

校長 宮原義文

伝えします。その校長先生は、朝は小学校沿いの歩道で、児童たちの出迎えをなさっているそうです。その



遠足にて(画像と本文は関係ありません)

際に、西出水駅から登校する出水高校生が、校長先生に対して、元気よくあいさつをするのだそうです。「私の返礼が追いつかないくらい、皆さんしっかりあいさつをしてくれそうです」そう校長先生はお話くださいました。加えて、こんなことも

## 祖父の思いを繋いで

四月二十八日(水)、出水中で、東京五輪の聖火リレーが開催されました。第一走者となったのは、本校三年生の岩下彩音さんです。実は、岩下さんのおじいさまも、前回の東京五輪の際、鹿児島県の聖火リレーの最終走者だったのだそうです。おじいさまは若くして病に倒れ、帰らぬ人になったと

話してくださいました。「児童たちが道路を横切るとき、高校生は渡り終わるまで立ち止まって待つてくれるのです。彼らの姿を伝えたくて、宮原校長にお電話した次第です」。お話を伺って、私自身「よし、彼らに負けないように、明日もしっかり生徒に向き合おう」改めてそう心に決めました。出水高校生の素晴らしい態度に心から感謝します。

のことですが、岩下さんは、そんなおじいさまの思いを繋ごうと走ったのでしよう。とても堂々とした姿でした。



沿道に手を振る岩下さん

## 雑感

ゴールデンウィークが間に迫っている。生徒はそれぞれ計画を立てていることだろう。注意しなければならぬのは連休明けの心身の変化だ。▼五月は年度当初からの疲れが一気に出る時期だと言われている。生徒によっては、休み明けに学校に行けなくなる、いわゆる「行き渋り」が起こることがある。▼こんなとき、「学校に行きなさい」とせかすのは逆効果だ。行けなくなるのは体の防衛反応であり、無理して登校させるとさらに悪化してしまうこともある。▼「学校に行きたくない」と子どもが訴えたら、親はまず子どもの声に耳を傾けるべきだろう。学校にも遠慮なく相談してほしい。▼親と学校が一体となって、生徒の気持ちにしっかり寄り添い、温かく見守りたいものだ。(宮原)